

中沢さんの詩妻が朗読 広島で「ゲン」40年イベント

原爆投下後の広島を
描いた漫画「はだしの
ゲン」の作者で、昨年



中沢さんの遺影の傍らで、詩を朗読する
ミサヨさん

12月に73歳で亡くなっ
た中沢啓治さんの未発
表の詩が4日、原爆資
料館東館(広島市中区)
であったイベントで披
露された。「水の都の
広島」から世界の海に
向け、平和への思いが
広がるよう願う内容
で、妻ミサヨさん(70)

が読み上げた。
イベントはゲンの連
載40周年を記念してフ
アンたちが開いた。「広
島 愛の川」と名付け
た詩は3番まである。
中沢さんが手術のため
中区の病院に入院した
6年前に作った。紙に
書いて中区の自宅の本
棚に置いていたとい
う。

1番(原文ママ)は
「愛を浮かべて川流れ
／水の都の広島で／語
ろうよ川に向って／怒
り、悲しみ、優しさを
／ああ、川は広島川
は／世界の海へ流れ行
く」とつづる。
ミサヨさんは朗読
後、中沢さんとの思い
出を語った。1966
年に母を亡くした中沢
さんが原爆漫画を描き
始めた当時の様子を
「一気に描いていた。
胸に詰まったものを
出したのだと思う」と話
した。「気持ち悪から
れる絵もある。ストー
リーでいかに引きつけ
るかいつも考えてい
た」と明かした。
(田中美千子)